

# iNovel 作成サービスの 設定方法



**Kaedebooks.com**

カエデブックス

# iNovel 作成サービスの設定方法

## 目次

- 本文に使えるフォント……………3P
- 目次、章題、作中に使える  
フォントの種類……………6P
- 数字の表記について……………16P
- 設定方法について……………24P
- 文字設定の注意点……………25P
- ルビの設定方法……………27P
- 傍点の設定方法……………28P
- 太字の設定方法……………29P
- 縦中横の設定方法……………30P
- 字下げの設定方法……………31 ~ 34P

## 本文に使えるフォント

- ・明朝体
- ・ゴシック体

二種類の中からお選びいただけます。

一 この文章は明朝体です。

一般的に使われている小説のフォントです

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂とんききやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きゆうのあとがいつぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

— この文章はゴシック体です。

現代的な雰囲気を出したいときに使用します

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂とんけつな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きゆうのあとがいったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

# 目次、章題、作中に 使えるフォント

- ・ 明朝体太字
- ・ ゴシック体太字
- ・ 教科書体
- ・ 楷書体
- ・ 隷書体
- ・ ポップ体
- ・ ペン行書体

七種類の中からお選びいただけます。

一 この文章は明朝体太字です。

明朝体から変えると雰囲気が変わります

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂とんきやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きゆうのあとがいつぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

— この文章はゴシック体（太字）です。

ゴシック体から変えると雰囲気が変わります

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂とんけつな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きゆうのあとがいつぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまですく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠



一 この文章は楷書体です。

女性的な柔らかい雰囲気が出ます

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂とんきやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きやうのあとがいつぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

一 この文章は教科書体です。

楷書体に似ていますが字のトメハネがしっかりしています

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂とんきやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きゆうのあとがいつぱいあつたので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

— この文章は丸ゴシックです。

子供や若い人が書いたような文章になります

うとうとうとして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂な声を出して駆け込んで来て、いきなり肌をぬいだと思ったら背中にお灸のあとがいっぱいあったので、三四郎の記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまですく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

一 この文章は古印体です。

古めかしい感じや怪奇小説のような雰囲気が出ます

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。発車まぎわに頓狂とんきやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きやうのあとがいつぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

一 この文章はポップ体です。

若い女性が書いたようなクダけた感じの文章になります

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。発車まぎわに頓狂な声を出して駆け込んで来て、いきなり肌をぬいだと思ったら背中にお灸のあとがいっぱいあったので、三四郎の記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまですく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

一 この文章はペン行書体です。

妙齡の女性が書いた達筆な手紙文のような文章になります

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。発車まぎわに頓狂とんきやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きやうのあとがいっぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

一 この文章は隷書体です。

筆の運びがはつきりしているので親しみやすい文章になります

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。発車まぎわに頓狂とんきやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中にお灸きやうのあとがいっぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

## 数字の表記について

縦書きにおける数字の表記は漢数字が一般的です。その他数字表記に関するよくある事例をまとめました。



## § 漢数字 ※原文

九時半に着くべき汽車が四十分ほど遅れたのだから、もう十時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵の口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に二、三軒ある。ただ三四郎にはちとりっぱすぎるように思われた。そこで電気燈のついている三階作りの前をすまして通り（後略）（夏目漱石『三四郎』）

これが元の漢数字で表した文章です。

大きな行李こくりは新橋しんばしまで預けてあるから心配はない。三四郎はてごろなズツクの鞆かぼんと傘かさだけ持って改札場を出た。頭には高等学校の夏帽をかぶっている。しかし卒業したしるしに徽章きしょうだけはもぎ取ってしまった。昼間見るとそこだけ色が新しい。うしろから女がついて来る。三四郎はこの帽子に対して少々きまりが悪かった。けれどもついて来るのだからしかたがない。女のほうで**通常の漢数字で表記した状態です** 原文 子  
と**思**っている。

九時半に着くべき汽車が四十分ほど遅れたのだから、もう十時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵よいの口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に二、三軒ある。ただ三四郎にはちとりっぱすぎるよ**う**に思われた。そこで電気燈の**つ**いて**い**る三階作りの前をすまして通り

## § 全角アラビア数字

9時半に着くべき汽車が40分ほど遅れたのだから、もう10時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵の口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に2、3軒ある。ただ三四郎にはちとりっぱすぎるように思われた。そこで電気燈のついている3階作りの前をすまして通り

これを縦書きにすると次ページのようになります。

大きな行李こうりは新橋しんばしまで預けてあるから心配はない。三四郎はてごろなズツクの鞆かばんと傘かさだけ持って改札場を出た。頭には高等学校の夏帽をかぶっている。しかし卒業したしるしに徽章きしょうだけはもぎ取ってしまった。昼間見るとそこだけ色が新しい。うしろから女がついて来る。三四郎はこの帽子に対して少々きまりが悪かった。けれどもついて来るのだからしかたしかた全角のアラビア数字で表記した場合です 若干違和感があります

と思っっている。

9時半に着くべき汽車が40分ほど遅れたのだから、もう10時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵よいの口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に2、3軒ある。ただ三四郎にはちとりっぱすぎるように思われた。そこで電気燈のついている3階作りの前をすまして通り

## § 半角アラビア数字

9時半に着くべき汽車が40分ほど遅れたのだから、もう10時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵の口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に2、3軒ある。ただ三四郎にはちとりっぱすぎるように思われた。そこで電気燈のついている3階作りの前をすまして通

※これを縦書きにすると次ページのように  
になります。

※半角英数字2文字を縦中横設定にすることも出来ます。

※縦中横の設定方法は後ほど説明します。

大きな行李こうりは新橋しんばしまで預けてあるから心配はない。三四郎はてごろなズツクの鞆かばんと傘かさだけ持って改札場を出た。頭には高等学校の夏帽をかぶっている。しかし卒業したしるしに徽章きしょうだけはもぎ取ってしまった。昼間見るとそこだけ色が新しい。うしろから女がついて来る。三四郎はこの帽子に対して少々きまりが悪かった。けれどもついて来るのだからしかたしかた **半角アラビア数字で入力しているところのように横向きになります**と思っっている。

6時半に着くべき汽車が40分ほど遅れたのだから、もう10時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵よの口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に2、3軒ある。ただ三四郎にはちとりっぱすぎるように思われた。そこで電気燈のついている3階作りの前をすまして通

大きな行李こうりは新橋しんばしまで預けてあるから心配はない。三四郎はてごろなズツクの鞆かぼんと傘かさだけ持って改札場を出た。頭には高等学校の夏帽をかぶっている。しかし卒業そつぎふ縦中横たてちゆうがたの設定方法は後ほど説明しますままった。昼間見るとそこだけ色が新しい。うしろから女がついて来る。三四郎はこの帽子に対して少々きまりが悪かった。けれどももついて来るのだからしかたがたしかなかった。帽子ぼうし半角数字はんかくしすうに縦中横設定をすると上向きにすることができますと思ってている。

9時半に着くべき汽車が40分ほど遅れたのだから、もう10時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵よひの口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に2、3軒ある。ただ三四郎にはちとりつぱすぎるように思われた。そこで電気燈のついている∞階作りの前をすまして通り越

# **ルビ、傍点、太字、縦中横 の設定方法**



## 文字設定の注意

- ・ルビは自動処理変換しますのでそのまま本文に直接《》の中に打ち込んでください。
- ・それ以外の傍点、太字、縦中横、字下げの設定は本文に書き込まず、抜き出して個別に指示内容を伝達してください。手作業で一つ一つ変換処理をしていきます。

傍点処理がしてあります

太字化してあります

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。**このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。**発車まぎわに頓狂とんきやうな声を出して駆け込んで来て、いきなり肌はだをぬいだと思ったら背中きゆうにお灸きゆうのあとがいつぱいあったので、三四郎さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまですぐ注意して見ていたくらいである。

ルビが振られています

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠

## § ルビの設定方法

①本文中にそのままルビを振りたいところを《》で括ってください。

※漢字、半角英数字まで対応可能です。

※本文に直接書き込んでください。

### 表記例

—

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。発車まぎわに頓狂《とんきょう》な声を出して駆け込んで来て、いきなり肌をぬいだと思ったら背中にお灸《きゅう》のあとがいっぱいあったので、三四郎《さんしろう》の記憶に残（後略）

## § 傍点の設定方法

- ①段落ごと文章を抜き出し、傍点を追加したい場所を<>で括ります。
- ②脇に傍点変更と記します。
- ③他の設定箇所と一度にまとめて貼り付けてください。

※本文に直接書き込まないでください。

### 表記例

■<>の箇所を傍点を追加してください。

<うとうと>として目がさめると女はいつものまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗りたいなか者である。発車まぎわに頓狂《とんきょう》な声を出して駆け込んできて、いきなり肌をぬいだと思ったら背中にお灸《きゅう》のあとがいっぱい（後略）

## § 太字の設定方法

- ①段落ごと文章を抜き出し、太字にしたい場所を<>で括ります。
- ②脇に太字変更と記します。
- ③他の設定箇所と一度にまとめて貼り付けてください。

※本文に直接書き込まないでください。

### 表記例

■<>の箇所太字に変更してください。

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。  
<このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。>発車まぎわに頓狂《とんきょう》な声を出して駆け込んで来て、いきなり肌をぬいだと思ったら背中にお灸《きゅう》のあとがいっぱい（後略）

## § 縦中横の設定方法

- ①段落ごと文章を抜き出し、<>で括ります。
- ②脇に縦中横変更と記します。
- ③他の設定箇所と一度にまとめて貼り付けてください。

※本文に直接書き込まないでください。

### 表記例

●以下<>の箇所、縦中横に変更願います。

9時半に着くべき汽車が< 40 >分ほど遅れたのだから、もう< 10 >時はまわっている。けれども暑い時分だから町はまだ宵の口のようににぎやかだ。宿屋も目の前に2、3軒ある。ただ三四郎にはちとりっぱすぎるように思われた。そこで電気燈のついている3階作りの前をすまして通り越

## 字下げの設定方法

のくような哀れを感じていた。それ

字下げが設定していない状態です

は、なんとなく異性の味方を得た心持ちがした。この女の色はじっさい九州色きゅうしゅういろであつた。

三輪田みつわたのお光みつさんと同じ色である。国を立つまぎわまでは、お光さんは、うるさい女であつた。そばを離れるのが大いにありがたかつた。けれども、こうしてみると、お光さんのようなのもけつして悪くはない。

ただ顔だちからいうと、この女のほうがよほど上等である。口に締まりがある。目がはつきりしている。額がお光さんのようにだだっ広くない。なんとなくいい心持ちにできあがっている。それで三四郎は五分に一度ぐらいい目を上げて女の方を見ていた。時々は女と自分の目がゆきあたることもあつた。じいさんが女の隣へ腰をかけた時などは、もつと



のくような哀れを感じていた。それでこの  
**字下げ設定をした状態です**  
は、なんとなく異性の味方を得た心持ちがした。この女の色はじっさい  
九州色きゅうしゅういろであった。

**三マス分字下げしています**

三輪田みわたのお光みつさんと同じ色である。国を立つまぎわまでは、お  
光さんは、うるさい女であった。そばを離れるのが大いにありが  
たかった。けれども、こうしてみると、お光さんのようなものけっ  
して悪くはない。

**前後の空行は本文で設定してください**

ただ顔だちからいうと、この女のほうがよほど上等である。口に締ま  
りがある。目がはつきりしている。額がお光さんのようにただっ広くな

## § 字下げの設定方法

①字下げしたい箇所を段落ごと抜き出して  
ください。

②脇に字下げ変更と記します。

③他の設定箇所と一度にまとめて貼り付けてください。

※三マス分字下げします。

**※本文に直接書き込まないでください。**

### 表記例

■以下の段落を字下げ処理お願いします。

三輪田《みわた》のお光《みつ》さんと同じ色である。国を立つまぎわまでは、お光さんは、うるさい女であった。そばを離れるのが大いにありがたかった。けれども、こうしてみると、お光さんのようなのもけっして悪くはない。